

創立滿四年の華北交通

日 野 生

華北は所謂大東亞共榮圈の構成分子の一部として現在においても又將來に於いても益々其の重要性を持ち、また加重されて來ることは種々情勢の然らしむるところである。而して北支の使命は云ふまでもなく民心の益々安定を圖つて日華提携の徹底を期して以てこの地をして日華親善の模範地區たらしむると共に、治安の強化、國防資源の開発は華北が持つところの重大使命である。而して現下治安の強化は愈々初期の目的を達成して肅正工作、政治工作、民政工作は着々と成果を結びつゝあることは幸甚の至りであるが、他方資源開發についても亦華北の地が我國に最も近接するの關係上、東亞共同防衛の主動である我國としては將來益々この地域の資源開發には最大の關心を持たざるを得ないのであることは識者を俟たないでも明瞭である。

而して北支の國防資源として最も重要なものは、即ち石炭、鐵、タングステン、石棉及び鹽、棉花等であるが、これ等を益々

開發するには畢竟鐵道、道路、水路、空路等所謂交通輸送問題、換言すれば交通機關の整備に依る外はないのであつて、殊に道路がそれ以外の交通路たる鐵道、水路、空路等に比較して以て遙かに普遍的なる機能を持つてゐるのであつて、即ち鐵道及び水路、空路等の地點と地點とを連結する道路は線であると共に、線と線との間を容易に埋めることが出來るところの面たるの特質を有してゐる道路は、特質を持つて居る故に軍事、經濟、政治、文化の各方面に互つて眞にその國土を最高能率に活用することが出來る道路の整備が最も必要であると思はれるのである。

茲に華北交通の状況を見ると、本年四月十七日を以て華北交通は創立滿四周年を迎へたのであるが、この過去四ヶ年間の發達は華北經濟の復興と進展とを反映して顯著なものが取戻ることが出來るのである。茲にその状況を見ると、鐵道は創業當時の總延長四千九百九十五軒に比較して、本年四月一日現在では六千二十

三料と一千二十八料を増加して居る。また旅客及び貨物は昭和十四年を一〇〇とする昭和十七年度の指數は一般旅客人員に於いて三〇九、同收入三二八である。貨物輸送量は一五八、同收入は一五八である。更に道路の方は創業當時の路線延長は四千二百キロであるが、本年四月一日現在では一萬七千三百料と約四倍に躍進してゐる有様である。路面自動車に依る旅客及び貨物はやはり昭和十四年を一〇〇として昭和十七年度の指數は貨物輸送量五四五旅客輸送量二六六にして更に營業收入及び車輛について見ると、營業收入は四六二、車輛保存數は二六七となつてゐる。また水路運輸方面では事變前の約五千キロに對して事變以來の河路の荒廢關門土塊の破壊等から營業開始も昭和十四年の九月まで遅延したが、營業料線は昭和十四年において二二一キロであつたのが同十五年には五八四キロに延長され、更に同十六年には一、四四三キロとなり、翌十七年には更に延長されて二、二三〇キロとなり、本年度即ち昭和十八年四月には四、一二三キロと漸次復舊しつつある。これに伴つて輸送量は昭和十四年、但し貨物は昭和十五年を何れも一〇〇とすれば、昨年即ち昭和十七年中には旅客輸送人員五二五、貨物輸送量四一四の比率にて増加してゐる。更に碼頭については現在經營中の碼頭は天津、塘沽、連雲、新河、招商局、北砲臺の六碼頭であるが、創業當時を一〇〇とした比例に依つて昭和十七年度の實績は入港船舶數一七四、輸出入貨物取扱量一、

〇九四となつてゐる。尚ほ昨年即ち昭和十七年十二月から本年五月に至る期間に於ける港灣荷役の増強期間實績は實施前の實績を一〇〇とすれば、増強目標に付いては連雲一三〇が實績五二八、塘沽一五〇が四六四、新河一五〇が四〇二、招商局一五〇が四九七、北砲臺一五〇が五三〇と何れも目標を遙かに突破して驚異的なものがある。

これが最近に於ける華北交通當局の發表であるが、これに依つても明かなるが如く華北の交通の業績は年一年と發達して居ると同時に顯著なるものがある。大東亞の建設に於いては諸國土の確固たる有機的統合は交通機關の任務であることは勿論、その國土を最高能率的に活用し以て高度國防國家建設と國民生活上の安定を期するのにもまた諸交通機關の發達に俟たざるべきを思ふ時、華北交通の年と共に發達は喜ぶべきことである。

